

2025年度多摩大学リテラシーレベル 自己点検・評価結果について

評価を行った体制(組織)	多摩大学教育・研究推進センター運営委員会
--------------	----------------------

項番	点検項目	点検結果	評価
1	プログラムの履修・修得状況	<p>【経営情報学部】 本プログラムの履修者数は累積目標としていた256名に対し、355名が履修する結果となり、修了者数においても、2年連続で100名以上となった。またVOICEの結果も、ほとんどの項目で4.00に近い評価数値であり、良好な結果となった。 一方で履修者数は前年度比で11.2%減、修了者は8.0%減という結果となった。 対象となる科目の単位未修得の学生もしくは一部単位修得している学生に対し、当該プログラムの単位修得を積極的に呼びかけることが必要となる。また、学生にとって履修しやすい時間割を検討していくことも課題となる。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 グローバルスタディーズ学部の本プログラムを構成する2つの授業において履修者は「AI・ゲーム・デジタル産業」が47名、「調査法入門:量的」が0名となった。基礎レベルのプログラムを構成する科目として、「調査法入門:量的」から学生がより受講しやすい新設科目を設定することについて検討する。</p>	B
2	学修成果	<p>【経営情報学部】 ・本プログラムを構成する「AIの活用基礎」では、毎回の授業で課題提出を課しており、各回の講義における学生ごとの習熟度を確認する上で活用されている。 ・2025年度より本プログラムを構成する「ICTコミュニケーション入門」では、Excel表計算処理技能認定試験3級のCBT方式による試験を学内で実施することを通して、学修成果の測定を実施した。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」では、課題、及び発表、復習テスト、期末テストを実施し、データサイエンス・AIへの理解と基礎的な能力を身につけることができている。 ※「調査法入門:量的」履修者0名のため、当該項目に関する点検結果についての報告はない。</p>	B
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身についたものと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.21(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :4.48(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :4.65(5段階評価) ※「調査法入門:量的」履修者0名のため、当該項目に関する点検結果についての報告はない。</p>	B
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.21(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :4.48(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :4.65(5段階評価) ※「調査法入門:量的」履修者0名のため、当該項目に関する点検結果についての報告はない。</p>	B
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>【経営情報学部】 項番1で示したとおり、2025年度の履修者数については良好な結果が得られている。 なお、当該プログラムを構成する科目である「ICTコミュニケーション入門」を、2026年度より2年生も履修できるようカリキュラムを変更する。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「調査法入門:量的」は履修者0名のため、基礎レベルのプログラムを構成する科目として、「調査法入門:量的」から学生がより受講しやすい新設科目を設定することについて検討する。</p>	B
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>【経営情報学部】 本プログラムを修了した学生が企業等に就職するのは、令和10年以降となる。 なお、当学では、卒業生の就職先に対し、卒業後アンケートを毎年実施している。当該アンケートを用いて、今後、リテラシーレベルの修了者の状況の把握と分析を行っていく予定である。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 当該プログラムが開設されたのが、令和7(2025)年度であり、まだ卒業生はなく、今後の取り組みとなる。今後、卒業時には可能な範囲で進路等の評価を実践する予定である。卒業後の企業等に調査をし効果の検証を実施していく。</p>	C
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>【経営情報学部】 2025年度は多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXを推進できる人材の重要性に関して情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。</p>	B
8	数値・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること	<p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触発されることが多い」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.05(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :4.29(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :4.72(5段階評価) ※「調査法入門:量的」履修者0名のため、当該項目に関する点検結果についての報告はない。</p>	B
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みを含む	<p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生(院生)の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :3.93(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :4.39(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>また、担当科目報告書から、2026年度は以下の改善の取組みを検討中であることを確認した。 <改善取組検討内容> 「AIの活用基礎」 :学生がより真剣に取り組めるように、ステップバイステップな課題を与えるようにする。 「ICTコミュニケーション入門」 :Excelの技能の習得を目指すものであるため、次年度は学生の習熟度に合わせ、確実に基礎固めができる授業構成とする。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :4.76(5段階評価) ※「調査法入門:量的」履修者0名のため、当該項目に関する点検結果についての報告はない。</p> <p><改善取組検討内容> 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :学生の理解水準を踏まえながら、より理解しやすい授業となるよう工夫を重ねていきたい。 「調査法入門:量的」 :履修者0名のため、基礎レベルのプログラムを構成する科目として、「調査法入門:量的」から学生がより受講しやすい新設科目を設定することについて検討する。</p>	B

※【評価記号】

- A: 点検項目の内容が達成されている。
- B: 概ね達成されているものの、改善の余地がある。
- C: 達成されていない。

2025年度多摩大学応用基礎レベル 自己点検・評価結果について

評価を行った体制(組織)	教育・研究推進センター運営委員会
--------------	------------------

項番	点検項目	点検結果	評価
1	プログラムの履修・修得状況	・本プログラムは2025年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。ただし、現時点で2024年度入学生のうち本プログラムにおいて2年次までに履修可能な5科目を履修した学生は3名にとどまっている。なお、2025年度の履修者数の目標値は取寄定員の2%(26名)であることから、広報活動を強化するなどの対策が急務である。	C
2	学修成果	・本プログラムを構成する科目では、レポートの提出だけでなく、グループワークの成果発表や制作したプログラムの相互評価等、様々な切り口で学修成果の見え方を図っている。	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり概ね4.00に近い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身についたものと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.48(5段階評価 ※クラス平均値) 「IT活用法」 :4.14(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.93(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.48(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.35(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.00(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.27(5段階評価)	A
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.48(5段階評価 ※クラス平均値) 「IT活用法」 :4.14(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.93(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.48(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.35(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.00(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.27(5段階評価)	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	・本プログラムは2025年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。ただし、現時点で2024年度入学生のうち本プログラムにおいて2年次までに履修可能な5科目を履修した学生は3名にとどまっている。なお、2025年度の履修者数の目標値は取寄定員の2%(26名)であることから、広報活動を強化するなどの対策が急務である。	C
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和10年度以降は本プログラムを修了した卒業生が企業等に就職するようになる。なお、当学では毎年、卒業後アンケートを通して、卒業生の就職先へのヒアリングを行っている。今後、当該アンケートを用いて修了者の企業評価の分析と改善へのフィードバックを行っていく予定である。	C
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	【経営情報学部】 2025年度は多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXを推進できる人材の重要性に関して情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。	B
8	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触れられることが多い」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.29(5段階評価 ※クラス平均値) 「IT活用法」 :4.12(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.71(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :3.73(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.17(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.03(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.14(5段階評価)	A
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みを含む	学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生(院生)の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.39(5段階評価 ※クラス平均値) 「IT活用法」 :4.27(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :4.18(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.27(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.19(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.09(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.11(5段階評価) なお、本プログラムの各科目における取組み内容を以下のとおり記載する。 <取組み内容> ・「AIの活用基礎」では、事例紹介を交えた授業を心掛けている。取り扱うテーマは「ビッグデータ」「機械学習」「IoT」「データ分析」等、多岐にわたり、多くの学生の学習意欲を引き出すことを意識している。 ・「IT活用法」では、プログラミングの実技授業だけでなく、定期的な学生によるプレゼンテーションを行い、各学生が相互に修得した知識の共有化ができるよう促すようになっている。 ・「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」では、統計検定の受験を強く推奨することで、学修目標の明確化を図っている。 ・「データベースⅠ(Access)」では、ビジネスシーンでのトレンドを意識し、扱う教材やテーマを考えながら授業運営を行っている。 ・「マーケティングデータ分析」は、データ収集・分析結果のとりまとめ・報告資料作成までの一貫したプロセスを各学生が一人で完結できるよう、その計画段階から丁寧に教育している。 ・「マーケティングデータ分析実践」は、グループワークによるデータ収集・分析を課しており、チームで取り組むデータサイエンスの迫り感を重要視している。 ・「先端情報技術概論」は応用事例の紹介にとどまらず、ディスカッションを通じて新たな情報技術サービスの可能性を考えることに力を入れている。	A

※【評価記号】

- A: 点検項目の内容が達成されている。
- B: 概ね達成されているものの、改善の余地がある。
- C: 達成されていない。